

追浜あんず通信

Oppama Anzu Press

第26号 2023年11月 発行:特定非営利活動法人 アクションおっぱま

第26回戦争遺跡保存全国シンポジウム横須賀おっぱま大会を終えて

9月16、17、18日の3日間、追浜コミュニティセンターを中心に開催された第26回戦争遺跡保存全国シンポジウム横須賀おっぱま大会は、盛況のうちに終わることができました。3日間の参加者は全国から延320人、迎える側の地元ボランティアは延101人(内学生30人)でした。16日の午後は全体会(記念講演、地域報告2本、追浜写真展、情報交換懇親会)、17日は分科会、書籍交換会、写真展(全国ネット、追浜)があり、最後は閉会集会で大会宣言が読み上げられました。なお、16日午前中にはプレッシャー(野島掩体壕)、18日は現地見学会(①第三海堡遺構・貝山地下壕コース ②三浦半島に残る本土決戦の遺跡コース)があり、実際に戦跡を体験する機会もありました。

昨年8月広島での第25回大会後に、「戦争遺跡保存全国ネットワーク」から「おっぱま大会」開催の打診を受け、ご賛同いただいた方々で実行委員会を立ち上げたのが本年2月でした。とはいえほとんどの方は「戦争遺跡保存全国シンポジウム」の参加経験がなく、「雲をつかむような話」だったと言われました。それが、実際に全国から集まった参加者を見て、「戦争遺跡を守り伝えようとする人がこんなにたくさんいるのか」あるいは「とても重いテーマなので暗い雰囲気では、と思ったが意外に明るかった」と印象が変わったようです。

大会は終わりましたが、実行委員会メンバーから「これで終わりではない、ここからが始まり」という声が上がりました。追浜に残る戦争遺跡を将来的に



全体会・9月16日

どう守り、伝えていくか、それには裾野を広げる必要があるが、本大会でももっと地域の方に呼びかけるべきであった、との反省もありました。やるべきことはたくさんありますが、一つ一つ地道に積み上げていくことだと考えています。

(おっぱま大会実行委員会委員長・昌子住江 NPO法人アクションおっぱま理事長)



分科会・9月17日

2023年度通常総会の報告

2023年度の通常総会は、5月19日(金)午後1時～3時、追浜コミュニティセンター第一学習室で開催されました。出席者数20名(うち委任状14名)、社員総数(正会員の数)は30名、定足数は過半数の16名ですので、総会は成立しました。総会では2022年度事業報告書、同活動計算書、同貸借対照表、同財産目録、同監査報告、2023年度活動計画書、同活動予算書がいずれも異議なく承認されました。詳細につきましては、ホームページ(「アクションおっぱま」で検索)をご覧ください。

2022年度は新型コロナウイルスの感染も収まり、第三海堡遺構や貝山地下壕の見学も従前に戻りました。また、第三海堡のイベント公開も再開し、ワイ!フェスタオッパマやアイクルフェアでの公開では多数の見学者で賑わいました。2023年度の事業計画もこうした活動が中心になります。

なお、2022年度は193,000円(8人、1団体)のご寄付をいただきました。活動資金として活用することができましたこと改めて御礼申し上げます。

(NPO法人アクションおっぱま理事長 昌子住江)

プレコース・野島と掩体壕(9月16日)

当日は集合時刻前に参加者19名が全員揃い予定通りに出発。とにかく日本一といわれる山を貫く巨大な掩体壕を見もらうこと、横浜市職員にカギを開けてもらいわずか5mですが壕内に入ってもらうこと、野島と飛行場のあった夏島側とがつながっていた痕跡を見ること、野島山山頂から旧日本海軍航空隊のあった場所、特に飛行場(滑走路)のあった所を見ってもらうことを主眼に歩きました。

参加者の感想です。「柵の中には、本当に掩体があるのだからと思っていた。でも、本当にあることがわかりました。感激です。」「ぜひ見てみたい戦争遺跡でした。それが実現して



嬉しかったです。…内部を見れたのも良かったです」「その大規模なことに驚きました。」野島山の坂を下りたところで時間が無くなり全員の感想を聞けなかったのは残念でしたが、参加者には野島掩体壕を体感してもらえたかなと思っています。

(NPO法人アクションおっぱま賛助会員 長塚淑江)



三浦半島に残る本土決戦の遺跡巡り(9月18日)・Part1

本見学ツアーは、東京湾要塞研究家のデビット佐藤氏による案内によるものでした。

初めに、平和中央公園にあった「米が濱砲台跡」を訪問。明治24年横須賀軍港を直接防御のために築かれた砲台には、土塁と砲座の跡が残る。少し下がった所には砲側弾薬庫(写真1)の一つが開放され、内部の漆喰と弾薬庫上部の通気口の鉄製屋根を見ることが出来た。

房総半島の遠景を観ながら、今日の平和な世に生まれたことに感謝する。

次は、長坂の電力中央研究所にあった「横須賀海軍機関学校大楠分校の地下壕跡」を訪問。昭和18年4月、大楠海軍機関学校が設置され、高等科・普通科訓練生の教育の他、特攻要員の教育も行われた。現状、地上の建物遺構は何も残っていないものの、西側の丘陵に残る地下壕(写真2)の米が学校の存在を偲ばせる遺構である。地下壕は空襲



(写真1) 米が濱砲台砲側弾薬庫跡

対策として延長450mあり、床面の両側には側溝が穿たれ、丁寧な湧水対策が施されている。現在も保存状態が良く、東側には研究所の地震計測壕として使用されている。地下壕は見学



(写真2) 横須賀海軍機関学校大楠分校の地下壕跡

不可であり、研究所の一般開放日にのみ洞窟探検として入壕できる。

午前の部を終了後、ソレイユの丘で昼食した。この長井の台地に建設されたものが特攻用の「第一武山海軍航空基地」であった。航空基地は終戦直前に完成したため、ほとんど使用されなかった。戦後は一部が米軍に接収され、ヘリコプター基地として使用。その後、米軍住宅が建てられて長井ハイツとして使用、同60年に日本に返還され、現在のソレイユの丘として整備された。今も、周囲には多くの防空壕が残されている。ソレイユの丘で家族揃って、無邪気な子供達の笑顔が誇らしげに観える。

(NPO法人アクションおっぱま正会員 宮崎恵之助)



三浦半島に残る本土決戦の遺跡巡り(9月18日)・Part2

昼食後、城ヶ島砲台跡を見学しました。現在は広大な城ヶ島公園駐車場ですが、以前はワシントン条約の下で廃艦になった戦艦安芸の大砲2門が移設された場所でした。地下施設の見学は、少人数のグループに分かれて案内されます。海側の坂を下ると、砲台下の地下倉庫及び通路に入る入口にたどり着きます。湿気を帯びた木製の扉をくぐり、地下の砲側庫から続く通路を探索します。入口付近から砕けた石の破片が散乱し50mほど続く通路に広がっています。奥には上部につながる坑道があり、当時の砲弾運搬の仕組みを想像させます。

海の先にある展望台はかつての観測所が設置されていた場所であり、



小型潜水艇「海龍」基地跡の洞窟

下部は現在は公園の倉庫として使用されています。海岸の岩場には潮位を観測するための穴があり、現在は網で蓋が取り付けられています。

ツアーを終えて道路の端に当時の痕跡が残ってあったり、企業敷地内の地下壕を見ることができたり、観覧車の上から飛行場跡を思わせる広い平原が見ることができたり、すっかりリゾート地に変貌してしまっている諸磯の「海龍」の基地跡など、ガイドのデビット佐藤氏の案内に大変お世話になったツアーでした。楽しく過ごさせていただきました。



諸磯湾と解説のデビット佐藤氏

(NPO法人アクションおっぱま賛助会員 渡邊伸一)



おっぱまふるさと写真展 同時開催

大会が無事、盛大に成功裡に終わり今ほっと一息ついています。思い返せば26回目を迎える行事に、バトンがこちらに渡された当時は緊張と戸惑いそのものでした。しかし受けられたのは光栄ですし、我が街追浜は海軍航空発祥の地で当大会の開催にふさわしいとの思いからやがて是非やり抜かねばという気迫が沸いて来ました。大変ご苦労だったのがNPO法人アクションおっぱまをはじめとする企画、実行委員の方々と、お手伝いの私共はただ付いていくのみでしたが、それでも最高のパフォーマンス、おもてなしを心掛け進めました。お蔭様にてお客様から数多く好評を頂く実り多い3日間でした。初日の諸先生の講演会では当大会の意義に関わる根幹や追浜ならではの歴史をわかり易く解説して下さい、2日目は各地戦跡の沿革および保存活動が分科会形式で紹介され私は追浜の等速試験水槽について拝聴しました。今まで気付かなかった誤解が解けたり、新たな発見に恵まれた両日でした。また戦争の無意味さ、無駄、害悪を改めて実感した次第です。3日目は貝山地下壕など市内各地戦跡のツ



アーでしたが、いずれも好評でした。その他初日と2日目に地元追浜をPRする写真を各会場に展示しましたが、特に旧軍の諸施設や戦跡の写真には人だかりが出来る位盛況で準備した甲斐がありました。今後2度と無い貴重な経験をさせていただき誠にありがとうございました。改めて大会の実行に関わったすべての方々、大変ご苦労様でした。

(おっぱまはっけん倶楽部 西条良彦)

大会のボランティアに参加して

■ 代表 川口 将人(よこすか海の市民会議)

開催日前日の会場設営に参加しました。当日の会場には多くの学生スタッフをはじめ、ボランティアの数がとても多く混乱もなくスムーズに設営完了となりました。事前準備がしっかりと行えていたのでしょう。ただ驚いたことは大会初日の余興の踊りスタッフの数が足りなかったこと!急遽踊ったこともないお披露目の踊りを踊るはめになるとは!



■ 村山 紀子(よこすか海の市民会議)

戦争遺跡保存 全国シンポジウム 横須賀おっぱま大会が大盛況で終了した事お喜び申し上げます。昨秋よりの準備で全てがスムーズに運び、私達よこすか海の市民会議の面々も僅かですがお手伝いが出来ました。いま世界では、新たな戦争遺跡はつくりえないの逆の道を進んでいます。今ある遺跡が増えることなく、保存活動が続く為に応援と協力をしたいと思います。

■ 吉田洋子(よこすかシティガイド協会)

書籍販売の担当をさせていただきました。多くの本の中で、あらためて戦争遺跡というものを考え直すことができました。こんなに多くの方々が戦争遺跡を残そうと活動していること、驚きとともに勇気をもらいました。ありがとうございました。

■ 小嶋達也(早稲田大学大学院修士課程1年)

最初の2日間をお手伝いさせていただきました。研究室の後輩2人と参加して他の人達とコミュニケーションを取って大会を楽しめたと同時に戦争について色んな角度からの話を聞けて、とても勉強になりました。

■ 小袋華乃子(神奈川大学)

私にとって戦争遺跡は、とても身近なものでした。幼少期にはそこで遊んでいた思い出もあります。しかし、これを当たり前の存在にせず目を向けていくべきものだと、今回参加して再認識しました。そして多様な活用法や考え方も学び、これから自分が出来ることを考えていこうと思います。

■ 大石悠太 (関東学院大学・守谷ノ間班)

今回の第26回戦争遺跡保存全国シンポジウム大会に参加させていただきありがとうございました。9月16日のみの参加でしたが、戦争遺跡保存の重要性という大学の授業では学ばないような講演が聞けて、とても有意義な時間でした。またシンポジウム大会で課題として挙げられていた、次世代への継承というのに対して、自分たちも今後何か情報発信をしていきたいです。



お知らせ

こみゅに亭カフェの閉店について

本年12月22日をもちまして「こみゅに亭カフェ」は閉店します。前身の「追浜こみゅに亭」が、今より駅近の空き店舗を活用して2004年10月に開店。手狭になったため、経産省補助金を得て2010年3月現店舗に改装移転しました。「追浜こみゅに亭」から数えて約24年、「街のホッとステーション」として皆様に親しまれてきました。喫茶・軽食だけでなく、手作り品の「私のこみせ」、白鷹町(山形県)の地域交流野菜のほか、ミニコンサートや手づくり講座等を開催してきました。ご愛顧いただいた地域の皆様、支えてくださったスタッフの皆様に感謝します。

(NPO法人アクションおっぱま理事長 昌子住江)

追浜あんず通信26号 2023年11月発行

発行 特定非営利活動法人アクションおっぱま

発行人 昌子住江

編集 NPO法人アクションおっぱま編集委員会

編集後記

「横須賀おっぱま大会」に関わり、ご執筆いただいた皆様ありがとうございました。これからも日常の活動を続けながら、戦争と平和について考えて行きたいと思います。
(昌子住江)